

キッチン用ナビッシュハンズフリー水栓

SF-NAH451SY型

工事店様へのお願い
 貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しいください。
 また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。
 商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解の上正しく施工していただき、
 なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に動作することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警告	「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注意	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
⚠	「注意しなさい！」 (上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
⊘	「してはいけません！」 (一般的な禁止記号です。)
⊘	「分解してはいけません！」
⊘	「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
⚡	「指示通りにしなさい！」 (一般的な行動指示記号です。)

⚠ 警告	
⊘	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。
⊘	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障のおそれがあります。
⊘	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。
⊘	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因となります。
⊘	電源コードや電源プラグが偏んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘	直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因となります。
⚡	給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。
⚡	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
⚡	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘	バスルーム等の水がかかるところや、表面に水滴を生じやすいような湿気の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。

⚠ 注意

⊘	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水を言います。
⊘	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをするおそれがあります。
⊘	給湯機器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財などを濡らすおそれがあります。
⊘	トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンジャー、クレゾールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⊘	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
⊘	水栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損のおそれがあります。
⚡	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをするおそれがあります。
⚡	フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してケガをしたり、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
⚡	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz	消費電力	常時：0.8W以下 動作時：2.5W以下
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水 (※1)
使用環境温度	【一般地仕様】 0~40℃ 【寒冷地仕様】 -20~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件 (※2)	0.06MPa(流動時)~0.75MPa(静止時)	給水圧力≧給湯圧力 (※3)	
感知距離 (グレーカード：80mm角)	タッチセンサー 約40mm 自動センサー 約130mm(ロングモード：約150mm)吐水中約200mm	感知エリア幅	タッチセンサー 約φ5mm 自動センサー φ10mm以下
電源コード長さ	1170mm		
取付条件	水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：5~30mm		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
 ※2：水栓金具が接続された状態で水栓金具の給水・給湯接続部直前の圧力です。
 ※3：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。
- ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、給湯器の能力・水圧などの条件により給湯器が着火しないことがあります。
- 貯湯式電気温水器は減圧弁にて給水圧力を減圧しているため、湯の流量が少なくなる可能性があります。LIXIL製の貯湯式電気温水器と組み合わせてご使用の場合は、弊社ホームページで組合せ表をご確認ください。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ (対辺8、23)、マイナスドライバー、精密ドライバー (マイナス) が必要です。

止水栓を設けてください。

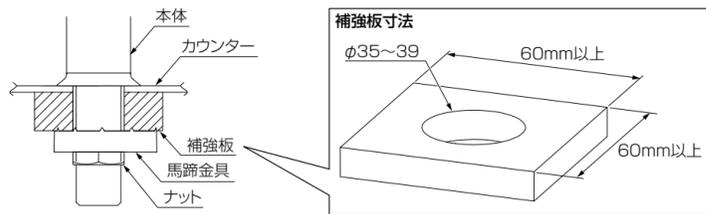
- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために **流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損のおそれがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付け後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター表面には、割れにくく強い補強板(合板など)をご使用ください。割れにくく強い補強板を使用しない場合、馬蹄金具を強く締め付けることができず、水栓本体が正しく固定できません。



配管・配線について

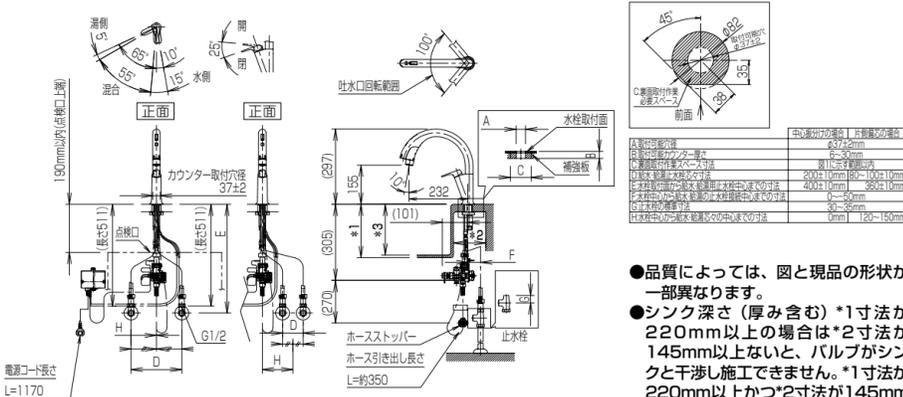
- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。(現場手配)
- 電気工事は必ず電気工事に依頼してください。
- コンセントは、震源プラグの定期的なお手入れが行えるような位置に設置してください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず **配管中の異物を完全に洗い流してください**。

その他の注意点

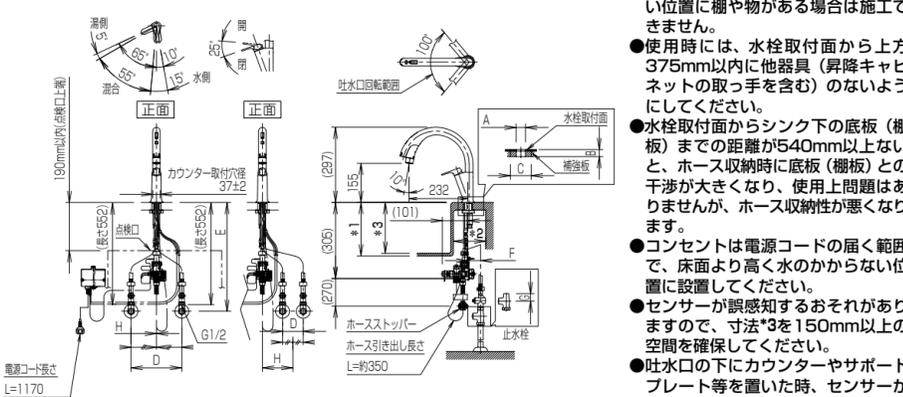
- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤動作する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤動作の原因となります。

施工完了図

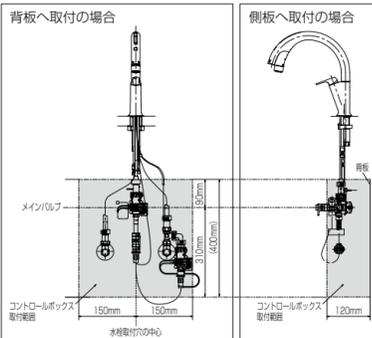
SF-NAH451SY型



SF-NAH451SYN型

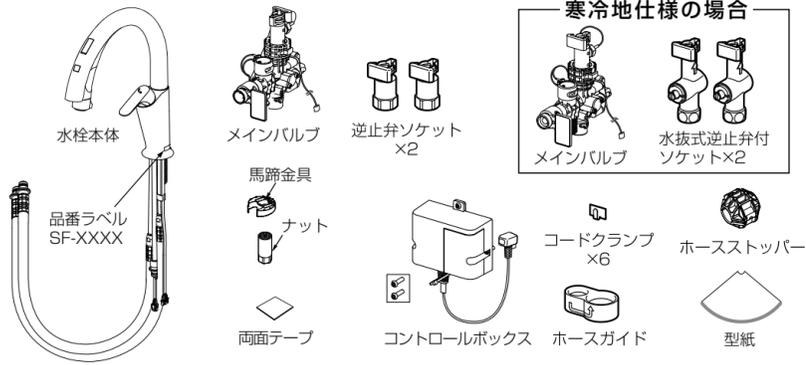


コントロールボックス取付範囲目安



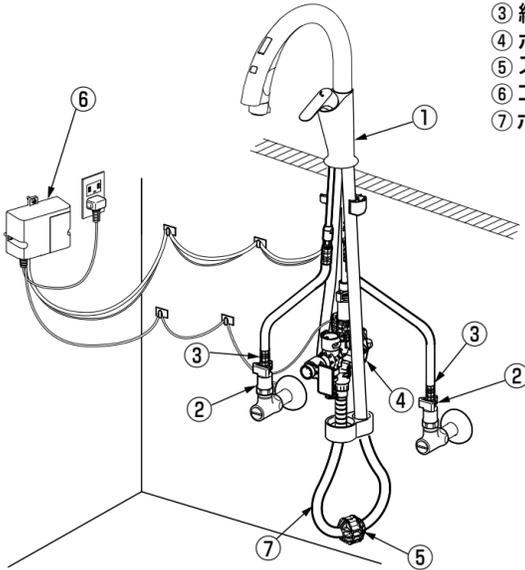
※各数値は目安の寸法・範囲です。
 下記に注意して取り付けてください。
 ・コントロールボックスやコード類に無理な力が加からないこと。
 ・水が滲入しないように床や巾着段上部の排水カバーから離すこと。
 ・引出し等と干渉がないこと。
 ・コントロールボックス右側に30mm程度の空間を確保すること。

部品の確認



2. 施工手順

- ① 水栓本体を固定する
- ② 逆止弁ソケットと止水栓の接続
- ③ 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
- ④ ホースとメインバルブの接続
- ⑤ ストッパーの固定
- ⑥ コントロールボックスの接続と設置
- ⑦ ホース収納性の確認

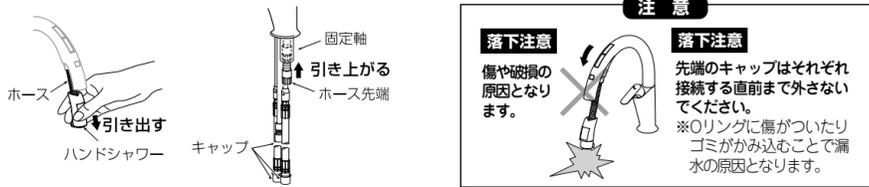


3. 施工方法

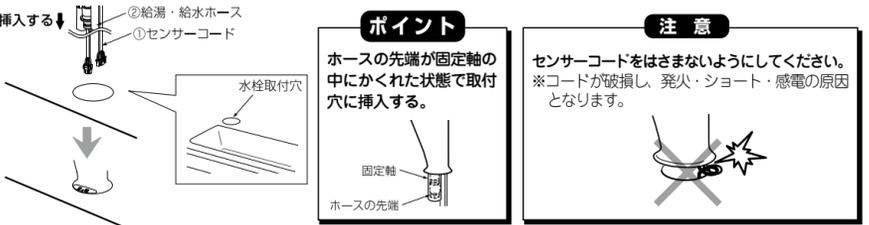
以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

1 水栓本体を固定する

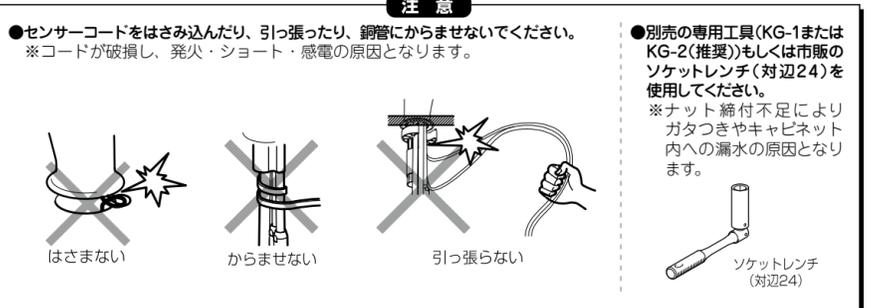
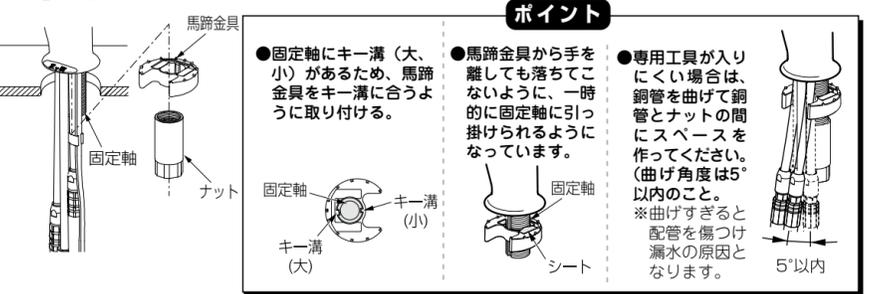
1. ホースの先端が固定軸の中に隠れるまでハンドシャワーを引き出す。



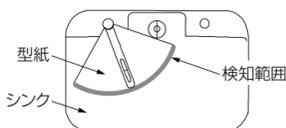
2. センサーコードを先に水栓取付穴に挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



3. 馬蹄金具を固定軸に挿入してナットで仮固定する。水栓本体が取付穴の中央にくるように注意する。

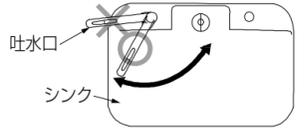


4. 同梱の型紙を使って、「検知範囲」がシンク内に納まるように水栓正面を決めてください。



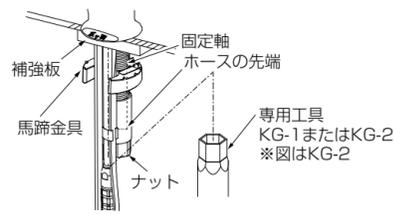
5. 吐水口を左右に回転させ、シンク外に吐水口が出ないか確認する。

注意：シンク外に吐水口が出るとカウンターを感知し、自動吐水する場合があります。



6. はみ出す場合は、ナットを少し緩めて吐水口がシンク内に収まるように水栓本体を回転させ、位置調整する。その後、型紙をはずしてください。

7. ナットをさらに締め続け、音が鳴り始めてから1/2回転以上増し締めします。KG-2 (推奨) (締付トルク10N・m程度)



注意：音が鳴り始めてから1/2回転増し締めしてください。



確認：水栓本体にくらつきがないこと。

8. 正面シールをはがす。



2 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。

注意：バック金の紛失に注意してください。※漏水の原因となります。



2. 逆止弁ソケットをスパナ(対辺23)で止水栓に固定する。

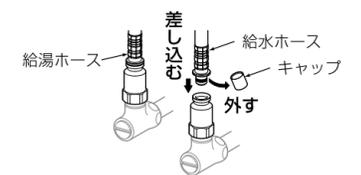
注意：逆止弁ソケットはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。※締付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因となります。



3 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

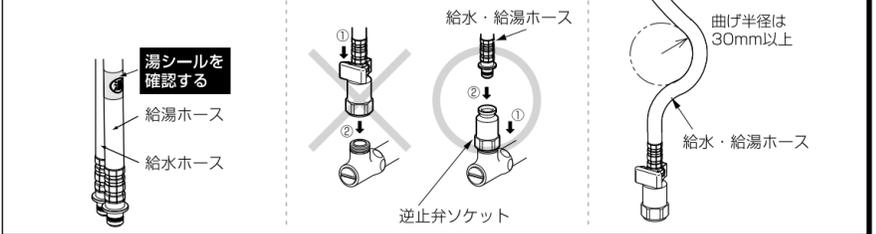
注意：Oリングに傷をつけたりゴミがこみがないよう注意してください。※漏水の原因となります。



2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

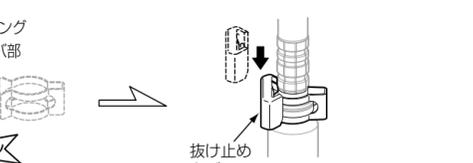
注意：給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをするおそれがあります。

注意：必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。※漏水の原因となります。



3. 抜け止めカバーをはめ込む。

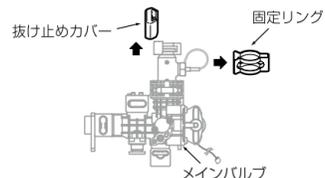
注意：抜け止めカバーをはめ忘れないようにしてください。※リングに触れるとケガをするおそれがあります。



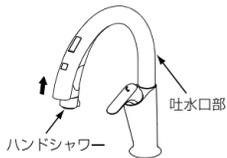
4 ホースとメインバルブの接続

1. メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。

注意：クリップに触れるとけがをするおそれがあります。



2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。

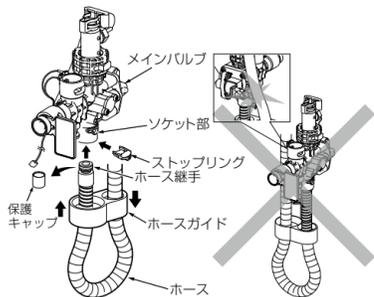


ポイント

ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させてください。

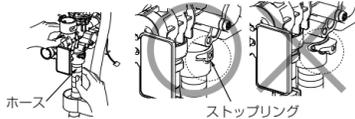


3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ホースがメインバルブの端子と干渉しないように、メインバルブの右側にもってくる。ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストッピングで固定する。



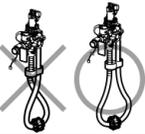
ポイント

メインバルブを手で持ち、ホースを挿入した後、ストッピングをしっかりとはめ込んでください。(ストッピングが外れると漏水の原因となります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストッピングがソケットからはみ出ていないことを確認してください。



注意

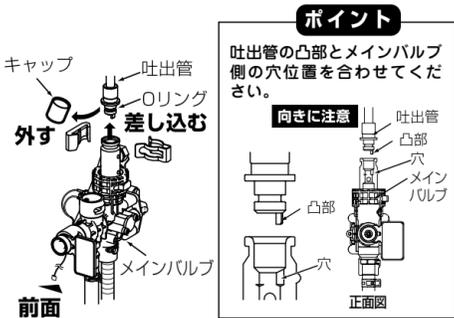
ホース継手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。



注意

ホースはメインバルブの右側にくるようにし、ホースとメインバルブの端子が干渉しないように注意してください。

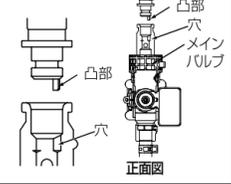
4. メインバルブを吐出管に接続する。



ポイント

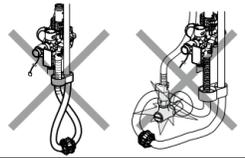
吐出管の凸部とメインバルブ側の穴位置を合わせてください。

向きに注意

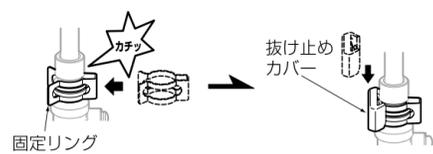


注意

●Oリングに傷をつけたりゴミがまがいないよう注意してください。
※漏水の原因となります。
●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因となります。



5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意

固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

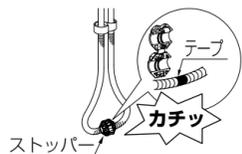


5 ストッパーの固定

テープを覆うようにストッパーを取り付ける。

ポイント

ハンドシャワーは吐水口に納めた状態で行う。

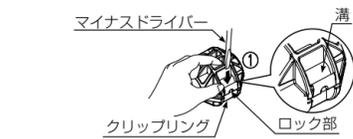


ポイント

ストッパーの外し方

1.ストッパーを指で押さえる。ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差し込む。

2.差し込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾ける。
3.マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外す。



6 コントロールボックスの接続と設置

1. コントロールボックスの取付位置を施設図を参考に仮決めし、シャワーホースやフレキシホースと3本のコードが絡まないようにコードを取り回しておく。

注意

濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

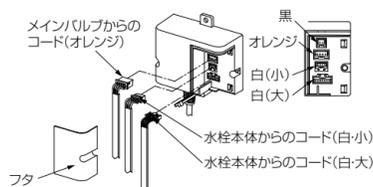
2. コントロールボックスにメインバルブからのコードと、水栓本体からのコード2本を差し込む。

ポイント

下のコードから順に差し込む。

注意

コードを差し込んだ後、軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
※作動不良の原因となります。



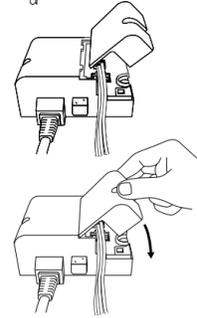
3. コード類を溝に収納しフタを閉める。

注意

コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因となります。

注意

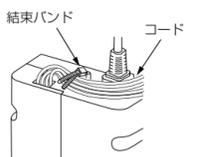
爪2か所を差し込んでから、矢印方向に蓋を装着してください。



4. コード類を結束バンドでしっかりと固定する。

ポイント

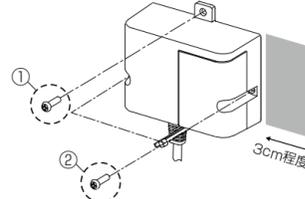
コードを引っ張ったときに、コネクタ部にかからないようにしてください。



5. 側板もしくは、背板に図のように2本のビスで固定する。②のビスは左右どちらかに固定する。ステンレスキャビネットなどの場合は、補強木に固定する。ビスが使用できない場合は、付属の両面テープで固定する。

注意

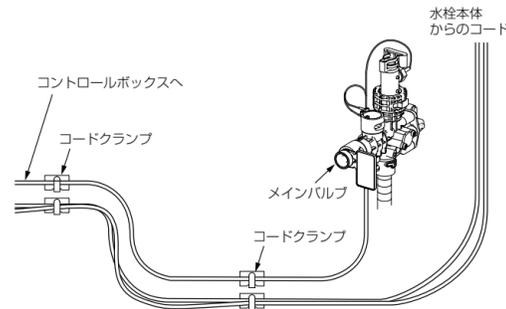
壁に取り付け時、コントロールボックス右側に3cm程度の空間を確保ください。
※蓋を開ける際に、指を入れる空間を確保するためです。



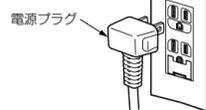
6. キャビネットの背板にコードクランプを取り付けて、コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)

注意

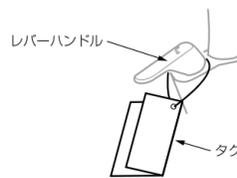
右側の「コードクランプ」は、コントロールボックス・メインバルブよりも下方に設置してください。
※発火・ショート・感電の原因となります。



7. 電源プラグをコンセントに接続する。



8. 施工完了後、タグを水栓のレバーハンドルに取り付けてください。

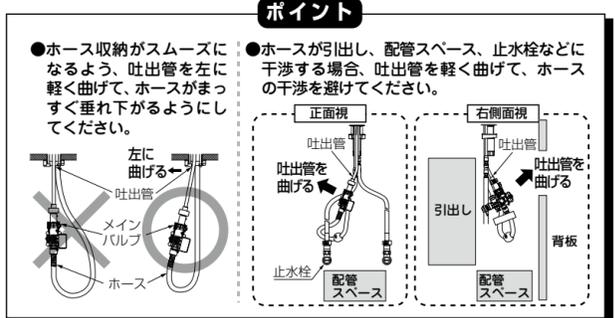
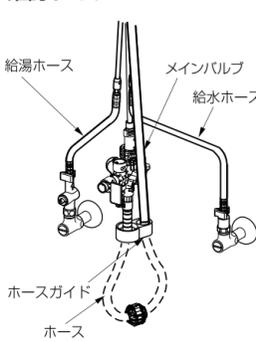


7 ホース収納性の確認

1. ハンドシャワーを数回出し入れし、シンク下のホースがスムーズに同じ位置に戻ってくるか確認する。

ポイント

●ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を左に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
●ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。



4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1 作動確認

1. 電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。

2. メインバルブの手动弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。



注意

手动弁は工具を使わず、手でゆっくり左いっぱいに戻してください。
※止水不良（センサーに手をかざしても水が止まらない）の原因となります。

3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。



注意

高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

4. センサーに手をかざして、湯水センサーの吐水・止水を確認する。



ポイント

●感知エリアは右図のようになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。

5. 自動センサーON/OFFスイッチを押し、光っている状態で、手を吐水口の下に差し出して、自動センサーの吐水・止水を確認する。



ポイント

●感知範囲は右図のようになっています。
●1分間吐水が続くと自動的に止水します。



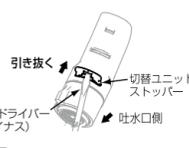
2 ストレーナーの掃除

注意

作動確認後、**ストレーナーを必ず掃除**してください。
※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナーの掃除

1. ハンドシャワーを引き出す。

2. 裏側にある切替ユニットストッパーの溝部に精密ドライバー(マイナス)などを掛けて引き抜く。

3. 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにごすり落とす。

4. 切替ユニットを取り付け、切替ユニットストッパーをはめる。


注意

切替ユニットを工具等で回さないでください。
※破損の原因となります。

注意

切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。

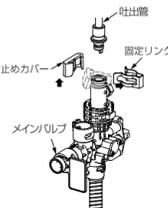
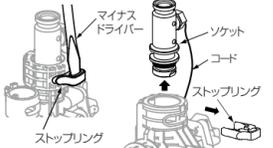
確認

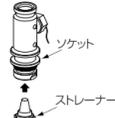
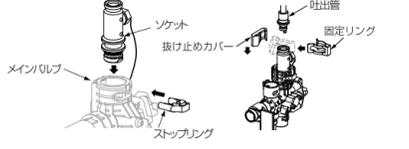
取り付け後は切替ユニットが抜けてこないこと。

ストレーナーの掃除

1. 水側(湯側)の止水栓を右いっぱい回して閉じる。

2. レバーハンドルを開け、一度センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。

3. メインバルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管からメインバルブを外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。

4. ストップリングをマイナスドライバーで外し、ソケットを外す。

5. ストレーナーを精密ドライバー(マイナス)で外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにごすり落とす。

6. ストレーナーをソケットに取り付ける。

7. ソケットをメインバルブに取り付け、ストップリングをはめて、吐出管に接続する。


注意

ソケットを外す際、ソケットから出ているコードが引っ張られないようにしてください。

ポイント

ソケットの溝にストレーナーをしっかりとめ込む。

ポイント

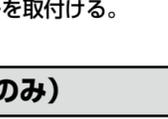
吐出管の凸部をソケット内の穴位置に合わせてください。

寒冷地仕様の場合

1. 水側(湯側)の止水栓を右いっぱい回して閉じる。

2. レバーハンドルを開け、一度センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。

3. ストレーナーを取り外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにごすり落とす、水洗いして除去する。

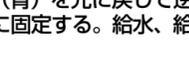
4. ストレーナーを取付ける。


逆止弁ソケット部ストレーナーの掃除(対象:一般地のみ)

1. 止水栓を閉じる。(右いっぱい回す)

2. 給水、給湯ホースを外してから逆止弁ソケットを外して、パッキン(青)を取り外す。

3. ストレーナーのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにごすり落とし、水洗いして除去する。

4. パッキン(青)を元に戻して逆止弁ソケットを止水栓に固定する。給水、給湯ホースを取り付ける。


3 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側のシャワー吐水の流量が約8L/min(1リットルの容器をいっぱいにするのに約8秒)を超える場合は、止水栓で流量調節します。

ポイント

湯と水の流量が同じになるよう調節してください。

湯水センサーと自動センサーは、レバーハンドルで吐水する流量を調節することができます。



4 お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、電源プラグを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。

5. 引渡前の確認

注意

施工後は、メインバルブの水抜栓が閉まっている(右いっぱい回っている)ことを確認してください。(寒冷地仕様の場合)
※開いた状態のままだと、漏水の原因となります。

メインバルブの手動弁を左いっぱい回した状態で、プレートをしっかり差し込んでください。
※プレートがしっかり差し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。

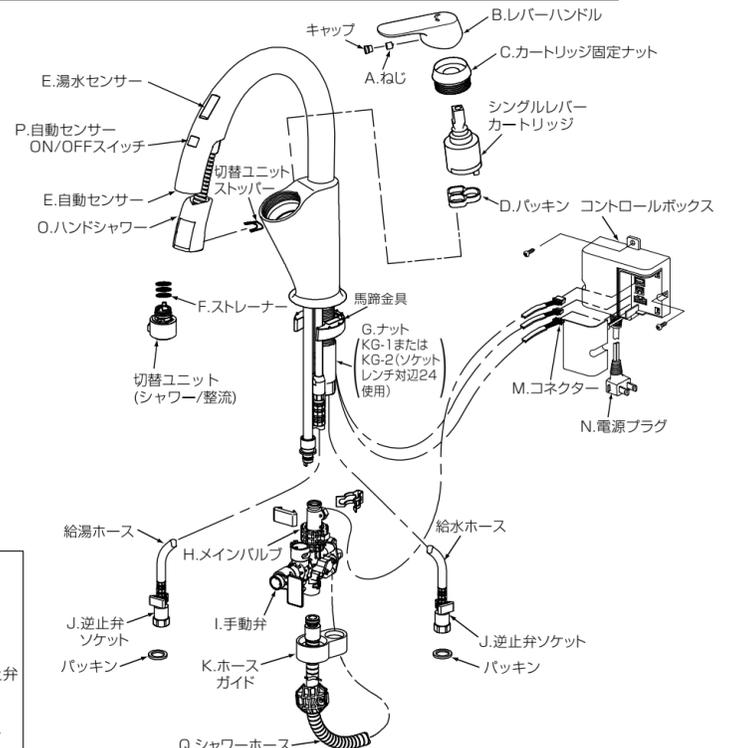
お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。
確認後はレバーハンドルを下げ、自動センサー ON/OFFスイッチを押し消灯状態にしてください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	コンセントに電気がきていない または停電中ではないか?	I	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く(右いっぱい回す)と吐水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて(左いっぱい回す)ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	電源プラグがコンセントに差し込まれているか?	N	電源プラグをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクタが外れていないか?	M	コネクタを接続する。	
	断水中でないか?	—	回復するまで待つ。	
	逆止弁が壊れていないか? (凍結等により)	J	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	ハンドシャワーが外れていないか?	O	ハンドシャワーを吐水口に差し込む。	取扱説明書「ハンドシャワーを使う」
	自動センサーON/OFFスイッチが赤色点滅していないか?	P	レバーハンドルを水側にし、湯水センサーで吐水する。	取扱説明書「自動センサーを使う」
自動センサーON/OFFスイッチが白色点滅していないか?	P	コネクタが外れていないか確認する。接続されている場合はサーミスタの故障と考えられる。	交換してください。	
流量が少ない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
水が止まらない	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	
	逆止弁が壊れていないか? (凍結等により)	B	レバーハンドルを開く。	
湯水の逆流がある	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	
	逆止弁が壊れていないか? (凍結等により)	B	レバーハンドルを開く。	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか?	E	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
希望の温度が得られない	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	J	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか?	—	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量の調節」
水栓本体がガタつく	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
	ゆるみはないか?	G	ねじをしっかり締める。	
	ハンドルがガタつく	A	ねじをしっかり締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、メインバルブと干渉していないか?	H・K・Q	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」

注意

※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。
●水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
●センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、メインバルブの動作音によるもので、故障ではありません。



寒冷地仕様の場合

